

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2005-506294 (P2005-506294A)

【公表日】平成 17 年 3 月 3 日 (2005.3.3)

【年通号数】公開・登録公報 2005-009

【出願番号】特願 2002-574974 (P2002-574974)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 31/519

A 6 1 K 31/282

A 6 1 K 31/337

A 6 1 K 31/513

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 D 239/54

C 0 7 D 305/14

C 0 7 D 405/04

C 0 7 D 487/04

【F I】

A 6 1 K 31/519

A 6 1 K 31/282

A 6 1 K 31/337

A 6 1 K 31/513

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

C 0 7 D 305/14

C 0 7 D 405/04

C 0 7 D 487/04 1 4 7

C 0 7 D 239/54 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 2 月 8 日 (2005.2.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

テガフル、ウラシル、フォリン酸またはその薬理学的に許容される塩、パクリタキセルおよびカルボプラチンの温血動物の腫瘍の治療のための使用。

【請求項 2】

テガフル、ウラシル、およびフォリン酸またはその薬理学的に許容される塩をそれぞれ経口投与することを特徴とする、請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】

テガフルおよびウラシルが 5 - フルオロウラシルの有効量を産生するために十分な量で使用される請求項 1 記載の使用。

【請求項 4】

テガフルおよびウラシルがそれぞれ約 1 : 4 のモル比で用いられる、請求項 1 記載の使用

。

【請求項 5】

パクリタキセルおよびカルボプラチンを、テガフル、ウラシル、およびフォリン酸またはその薬理的に許容される塩の前に投与することを特徴とする、請求項 1 記載の使用。

【請求項 6】

第 1 日目にパクリタキセルおよびカルボプラチンを静脈内投与し、テガフル、ウラシル、およびフォリン酸またはその薬理的に許容される塩を第 2 日目から第 22 日目の間経口投与し、ついで第 23 日目から第 28 日目の間を休止期間とする、約 28 日間治療スケジュールを特徴とする、請求項 5 記載の使用。

【請求項 7】

治療スケジュールを少なくとも 1 回は繰返す、請求項 6 記載の使用。

【請求項 8】

テガフルおよびウラシルがそれぞれ約 1 : 4 のモル比で用いられる、請求項 5 記載の使用

。

【請求項 9】

テガフルおよびウラシルの合剤をテガフルを基にして約  $200 \sim 300 \text{ mg/m}^2$  / 日の投与量で経口投与し、フォリン酸カルシウムを約  $90 \text{ mg}$  / 日の固定投与量で経口投与し、パクリタキセルを約  $30 \sim 200 \text{ mg/m}^2$  の投与量で静脈内投与し、およびカルボプラチンを約  $100 \sim 500 \text{ mg/m}^2$ 、または約  $4 \sim 6 \text{ mg/ml}$ ・分の AUC を生じる様にカルバートの計算式で計算した投与量で静脈内投与する、請求項 8 記載の使用。

【請求項 10】

テガフルおよびウラシルがそれぞれ約 1 : 4 のモル比で用いられる、請求項 6 記載の使用

。

【請求項 11】

テガフルおよびウラシルの合剤をテガフルを基にして約  $200 \sim 300 \text{ mg/m}^2$  / 日の投与量で経口投与し、フォリン酸カルシウムを約  $90 \text{ mg}$  / 日の固定投与量で経口投与し、パクリタキセルを約  $30 \sim 200 \text{ mg/m}^2$  の投与量で静脈内投与し、さらにカルボプラチンを約  $100 \sim 500 \text{ mg/m}^2$ 、または約  $4 \sim 6 \text{ mg/ml}$ ・分の AUC を生じる様にカルバートの計算式で計算した投与量で静脈内投与する、請求項 10 記載の使用。

【請求項 12】

腫瘍が食道、胃食道接合部、または胃の腫瘍である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 13】

温血動物がヒトである、請求項 1 記載の使用。